

桐蔭法科大学院主催
第3回 桐蔭CRECシンポジウム
「中小企業とコンプライアンス」

日付 2017年3月15日(水)
場所 桐蔭法科大学院「東京キャンパス」

【プロローグ】企画趣旨説明

大澤 恒夫 氏(元日本IBM法務担当、桐蔭法科大学院教授、弁護士)

大澤 それでは、第3回桐蔭CRECシンポジウム「中小企業とコンプライアンス」を始めさせていただきます。私は、今日司会を務めさせていただきます大澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日、皆さんのお手元に配付資料があるかと思えます。その中で冊子になっておりますのは、前回第2回シンポジウムの記録を反訳して1冊にしたものです。ご参考にしていただければ幸いです。それから、本日のプログラムと企画趣旨説明、及び、レジュメ類をまとめて印刷したものをお配りしています。

本日は前回より若干時間を延ばしまして、21時までシンポジウムをさせていただければと思っております。前回は、フロアの皆さんとのディスカッションの時間がなかなかとれなかったのですが、今日はできるだけそういう時間をとっていきたいと思っております。

なお、今日の登壇者の中島先生は、急用ができて、ご報告をいただいたあとすぐにお帰りになられます。ですので、ディスカッションは中島先生を除くわれわれでさせていただきます。申し訳ございません。

それでは、本日の企画趣旨を若干説明させていただきたいと思えます。前回フロアのご参加の皆さんからいろいろご意見をいただく中で、中小企業のコンプライアンスは一体どうなっているのだ、どうあるべきか、ということについて非常に重要な問題提起をいただきました。

確かに、従前いろいろところで語られているコンプライアンスというものは、どうも大企業向けなのが語られているのではないか、中小企業はそんなことは言っていられない、稼がなければならない、コンプライアンスは営業の足を引っ張っているのではないか、生やさしくないというようなご意見、あるいはそういう感覚が相当あるのではないか。

そういうことで、中小企業に一つの焦点を当て、登壇の皆さんに報告をしていただいて、そしてディスカッションをしたいというのが本日の企画の趣旨でございます。

コンプライアンスはお金がかかるのではないか、あるいは、コンプライアンスなんかやっていると稼げないのではないか、そもそもコンプライアンスとは一体何なのか、といっ

たことを、中小企業の問題を通じて考えてみると、何か本質的な議論に至るのではないか。実際に中小企業のコンプライアンスはどのように取り組んだらいいのだろうか。ロースクール的に見ると、ロースクールにおける教育、あるいは、そこから輩出した人材は、中小企業のコンプライアンスにどのように貢献することができるのかというようなこともテーマになるのではないかなと思っています。

まず第1部の基調講演ですが、例によりまして、桐蔭CRECのセンター長を務めていただいております久保利英明先生に、「やる気の出るコンプライアンス」という演題でお話をいただきたいと思います。

そして、19時10分をめどに第2部のパネルディスカッションを始めたいと思います。先ほどご紹介しました、元東京高裁判事でいらっしゃいます中島先生、それから、元東京地検特捜部の検事でいらっしゃいます熊田先生、休憩を挟みまして、ここに3名並んでいますが、当法科大学院出身の、今、現に企業内弁護士をしている3名に登壇いただきまして、それぞれの経験を踏まえて、中小企業のコンプライアンスということについてどのようにお考えなのか、お話をしていただいたうえでディスカッションをしたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。